

	児童の実態	改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○内容を相手に分かりやすく話す機会が少なく、今後増やす必要がある。 ○経験と照らして内容を考えながら話を聞くことに課題がある。 ○ひらがなの習得が困難な児童がいる。丁寧に書くことに声かけの必要な児童がいる。 ○促音、拗音等を正しく表記すること、文章を書く際の「は、を、へ」を正しく使うことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「いつ」「どこで」「誰と」「何をした」などの項目を掲示し意識させて話す練習を意図的に入れて、習熟させていく。 ○話を聞くときの姿勢やルールを意識させるとともに、内容理解ができているかを適宜確かめながら進め、注意を促す。 ○機会を捉えて個別学習を行う。書き順や正しい字形を意識させる指導を継続し、漢字学習につなげる。 ○書いたものを声を出して読む、文節を区切って提示するなどして意識化を図る。文を書く時に繰り返し指導していく。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○場面状況を考え、演算決定をすることに支援が必要な児童がいる。 ○計算に習熟が必要な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○分かっていること、聞かれていることに線を引かせたり、問題場面を図で表させたりして、立式させる。 ○ブロック操作など、具体物での活動を多く取り入れ、多くの問題に取り組む。また、計算カードの練習を繰り返しさせる。
生活	<ul style="list-style-type: none"> ○観察をするとき、対象物を細かく見て、特徴等に気付くことが難しい場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○調べたことの何に気付かせるか明確にし、授業の中で視点を与える声かけをしていく。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的に聴いたり表現したりすることを十分に行っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○距離や間隔に十分配慮し、発表や話し合い、聴き合う活動を十分に取り入れる。 ○音楽の用語、様子や気持ちを表す言葉を増やせるよう、その都度確認したり提示したりする。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ○工作する時、注意深く材料を扱うことが苦手な児童がいる。 ○はさみ、のり等の扱いがまだ十分でない児童がいる。 ○うまく形が描けなかったり、色が塗れなかったりする児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○紙を折る際に角と角を合わせる等、何に気を付けて作業するか声をかけ、根気よく取り組ませる。 ○生活や他の学習の中でも、使用場面を増やし、指導を繰り返す。 ○形や色を確認したり、声をかけて根気よく取り組ませたりする。

体育	○走る、跳ねる、転がる、飛び降りる、くぐる、よじ登るなど全身を上手に動かすことが苦手な児童がいる。	○コーディネーショントレーニングを取り入れて、基礎的な運動能力を向上させる。 ○様々な体の部位を動かす運動の場を設定し、多様な動きを経験できるようにする。
----	---	--

	児童の実態	改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○大事なことを落とさずに聞くことに課題がある。 ○行動したことや経験したことを相手に分かりやすく話すことが苦手である。 ○言葉の意味が理解しきれていないため、文章問題や場面把握に課題が見られる。 ○身近なことを表す語句の量に個人差が大きく、語彙を豊かにする必要がある。 ○新出漢字が増え、定着が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○何を聞き取ればよいかを明確に伝え、意識して聞くことを指導していく。 ○話し手を見て、最後まで聞くことを徹底させる。 ○基本的な話形を指導する。 ○「いつ」「どこで」「誰と」「何をした」などの項目を意識させて話すことを指導していく。 ○読書の時間や読み聞かせをたくさん行う。また、言葉の意味が理解できているかその都度確認する。さらに、言葉の使い方の広がりにも触れていく。 ○繰り返し練習の機会を増やし、小テスト等を実施して定着を図る。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○時刻と時間や長さなど単位を使った計算や単位換算が苦手である。 ○数の相対的な大きさについて理解が不十分な面が見られる。 ○数の構成や数列が分からない児童がいる。 ○繰り返し上がり、繰り返し下がりのある計算にミスが多く見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活の中で進んで活用できるように、時刻を読ませたり物差しを利用させたりする。 ○具体物の提示やブロックの操作などを通して、十や百などを単位として数の大きさを捉える機会を増やす。 ○1年生で学習した「10はいくつといくつでできているか」という練習を繰り返す。 ○数直線などを用いながら、視覚的に捉えられるように工夫する。 ○計算カードを使って、繰り返し上がりと繰り返し下がりのある計算の練習に、引き続き取り組ませる。 ○まず計算や東京ベーシック・ドリル等のプリントを使用し、必要に応じて立ち戻る学習を行い、正確に計算できるようにする。
生活	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の気づきを共有し合うことが難しい場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○気付いたことを記録したり、発表したりする機会を多くする。 ○観察のポイントを明確にしてから観察をさせる。

<p style="text-align: center;">音楽</p>	<p>○全員が十分に主体的に聴いたり表現したりできるようにする必要がある。</p> <p>○歌唱で、一生懸命に歌っているものの音程を合わせられない児童がいる。</p> <p>○鍵盤ハーモニカの演奏技能に個人差が見られる。</p> <p>○リズム打ちなどにおいてリズムが安定しない児童がいる。</p>	<p>○様子や気持ちを表す言葉と共通事項を結びつける活動と鑑賞・表現の両方の学習を取り入れる。</p> <p>○適切な人数による学習形態を工夫し、自分の思いや考えを伝える場面を増やす。</p> <p>○聞き合う場面を増やしていくことで、周りの声を聴く意識を育てていく。</p> <p>○ポイントをしばって反復指導を徹底し、難しい箇所は互いに教え合う等、学習形態を工夫することで技能の向上を図る。</p> <p>○木琴やタブレットを活用するなど、教具を工夫して指導を行う。</p> <p>○リズム打ちやリズム作り、鑑賞などを通してリズム感を育てる。</p>
<p style="text-align: center;">図画工作</p>	<p>○表現することを楽しむ児童は多いが、発想が広がりにくい児童も見られる。</p> <p>○はさみ、のり、絵の具等の道具の扱いがまだ十分でない児童がいる。</p>	<p>○題材の導入を工夫して興味をもたせる。また、教師の言葉かけや他の児童の活動を参考にさせる。</p> <p>○道具を使うときに、正しい使用方法を確認する。</p> <p>○生活や他の学習の中で使用する場面を増やし、道具に慣れさせる。</p>
<p style="text-align: center;">体育</p>	<p>○体幹が弱く、姿勢保持ができない児童が多数いる。</p> <p>○体を動かすことに苦手意識のある児童が多数いる。</p> <p>○全身を上手に動かすことができない児童が多い。</p>	<p>○コーディネーショントレーニングを取り入れて、基礎的な運動能力を向上させる。</p> <p>○体を動かすことが苦手な児童の為に、遊具や教具の正しい使い方を指導し、ルールを工夫して誰もが楽しめる遊びを行えるようにする。</p> <p>○鉄棒・マットなどの器械・器具を使っての運動遊びを中心に、様々な場を用意し、運動経験を増やすようにする。また、鬼遊び、走跳の運動遊びをなるべく多く設定していく。</p>

	児童の実態	改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○相手が分かりやすいように理由をあげながら話すことに課題がある。 ○構成を考えたり、自分の考えや気持ちを入れたりして文章を書くことに課題がある。 ○話の中心を考えながら聞くことに課題がある。 ○最後まで集中して話を聞くことに課題がある児童がいる。 ○学習した漢字を適切に使えないことが多い。また、定着が難しい児童がいる。 ○原稿用紙の使い方が定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日頃から主語・述語を落とさずに話す練習をさせる。 ○書きたいことの内容を明確にして短い文章を書く機会を多くする。構成メモなどを活用しながら気持ちを表す表現に着目させ、文章を書くように指導する。 ○授業以外に日常生活の中でも、話し手を見て聞くことや質問は最後にすることを意識させる。話の内容を振り返る機会を多くしていく。 ○日常的に新出漢字の使い方や読み方について意味を調べ、反復練習を行うことにより習熟を図る。繰り返し練習の機会を増やし、小テスト等を実施して定着を図る。 ○視写等をさせ、使い方に慣れさせる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○資料を読み取り、まとめる経験が少ない。 ○実際の場所と地図とを重ね合わせて考える経験が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料の見方を指導し、必要な情報を読み取る場面を多く設定する。また、調べたことについて、自分の考えをまとめたり、発表したりする機会をできるだけ多くする。 ○四方位を確認したり、地図で場所を確認したりすることをくり返し指導する。また地図記号を活用できるようにする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○問題を理解し、図や表を用いて正しく演算決定できない児童がいる。 ○「時間と時刻」「九九」が苦手な児童がいる。 ○既習事項の定着に課題のある児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○図や表を用いて考えさせる授業を常に行う。また、意見を発表する機会を多く設け、多様な解決方法にふれさせる。 ○習熟度に応じて学習課題を変え、児童の実態に沿うようにする。 ○時間と時刻の違いや時刻の進み方などを日常の生活の中で指導する。 ○習熟度に応じた学習課題を繰り返し与え、既習事項の定着を図る。 ○授業のはじめに計算練習をする。 ○必要に応じて東京ベーシックドリルの活用やジャンプアップ学習、個別指導を行い、既習事項の習熟を図る。

理科	<p>○実験や観察を進んで行うが、結果を考察したり表現したりすることが難しい場合がある。</p> <p>○実験器具の使い方に慣れていない。</p>	<p>○観察を継続的に行ったり、複数の実験を行ったりし、その比較から考えをまとめることができるようにする。</p> <p>また、グループでの情報交流を通して、自分の考えをまとめることができるようにする。</p> <p>○実験器具を扱う場面では、初めて使用する器具が多いので、安全に配慮し指導を行っていく。</p>
音楽	<p>○拍に乗りながら（合わせながら）の器楽の演奏が難しい児童が見られる。</p>	<p>○拍に合わせたリズム遊びを常時行って、拍にリズムが合う感覚を身に付け、器楽の演奏に生かしていく。</p>
図画工作	<p>○意欲的に取り組む児童が多いが、新しい発想が浮かばない児童も見られる。</p> <p>○意欲的に取り組み始めても、活動の途中で、用具の扱いが困難になる児童が見られる。</p>	<p>○題材の導入を工夫し、個別に声をかけ支援する。</p> <p>○題材の始めに用具の使い方の基礎・基本を指導し、定着を図る。また、個別に指導・支援をする。</p>
体育	<p>○個人の課題を設定したり、ゲームのルールを工夫したりする経験が少ない。</p> <p>○器械運動、ゲームなど学習で個人差が大きい。</p>	<p>○お互いに見合い、自分やチームの課題に気付けるようにする。また学習カードを取り入れるなど、振り返りを大切にする。</p> <p>○コーディネーショントレーニングを取り入れて、基礎的な運動能力を向上させる。</p> <p>○段階的な練習の方法を提示し、自分の力に合った方法を選ぶことができるように助言や支援をする。鬼遊びや走跳の運動遊びを多く設定する。場の設定を工夫し、個々の運動量を増やし、学習の満足度を高めていく。</p>

	児童の実態	改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを根拠をもって話すことに課題がある。 ○前後の関係と結び付けて、文章の中心を読み取ることが苦手な児童がいる。 ○構成を考え文章を書くことが苦手な児童がいる。自分の考えや気持ちを文章にすることが苦手な児童がいる。 ○学習した漢字を適切に使ったり、筆順を正しく正確に書いたりすることが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「なぜなら」や「理由は」などの接続語を使って書いたり発言したりさせる。 ○指示語や逆接を丁寧に扱う。はじめ・中・終わりを意識することができるようにする。 ○教材文のキーワードやキーセンテンスにサイドラインを引かせる。 ○書きたいことの内容を明確にさせ文章構成を考えさせる。また、構成メモなどを活用し、接続語なども用いて書くようにさせる。心情を表す言葉に着目させる。 ○新出漢字の意味を丁寧に扱い、使い方や読み方の反復練習を行い習熟を図る。小テストを行う。 プリントやノートの点検をこまめに行い丁寧に書くよう指導する。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○資料を読み取り、まとめる経験が少ない。 ○実際の場所と地図とを重ね合わせて考える経験が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料の見方とそこから分かることを考えさせ指導を繰り返し、必要な情報を読み取る場面を多く設定する。また、調べたことについて、自分の考えをまとめ、発表する機会を多くする。 ○四方位を確認したり、地図で場所を確認したりすることをくり返し指導する。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○わり算の筆算の仕方が定着していない児童がいる。 ○定規、三角定規、分度器、コンパスなど教具を巧みに扱うことが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○筆算形式の流れを具体物の動きと結び付ける活動を繰り返し行う。 筆算の仕方が理解できたら、計算の手順を反復練習で定着させる。 ○正しい教具の扱い方を、東京ベーシックドリル等を活用しながら、ジャンプアップタイムなどで再度指導する。三角形のかき方などは、手順を一つ一つおさえながら、習熟を図る。

理科	<p>○実験自体が目的になり、実験への目的意識が薄れる場合がある。</p> <p>○生活経験に乏しく学習内容と関連づけて結果から考察したり表現したりすることは不十分などところがある。</p>	<p>○疑問や予想をじっくり考えさせ、目的意識をもたせる。また結果をまとめ、考察する際も問題に立ちかえって考えることを意識させる。</p> <p>○体験的な学習を取り入れそこから分かることを学習と結び付ける。</p> <p>○グループでの話し合い・学び合いの中から自分の考えをまとめる力を付ける。</p>
音楽	<p>○音楽記号や音楽の要素を表す言葉の定着に個人差がある。</p>	<p>○新しく学習する曲の中に既習のものがあったら必ず復習し、関連付けて知識の定着を図る。</p>
図画工作	<p>○活動の過程に、自分や友達作品（活動）を振り返り、自分の表現に生かしていく場面が少ない。</p> <p>○意欲的に取り組み始めても、活動の途中で、用具の扱いが困難になる児童が見られる。</p>	<p>○短い時間でも鑑賞タイムを設定し、自分や友達作品のよさや面白さを見つける機会を作る。</p> <p>○題材の始めに既習の基礎・基本を指導し、定着をはかる。また、個別に指導・支援をする。</p>
体育	<p>○基礎的な体力が不十分である。</p> <p>○器械運動、投球など器具を使った運動での個人差が大きい。</p> <p>○個人の課題を把握することが難しい。</p>	<p>○コーディネーショントレーニングを取り入れて、基礎的な運動能力を向上させる。</p> <p>○段階的な練習方法を提示し、動きを連動できるように助言や支援をする。</p> <p>○お互いに見合ったり、教師からの助言をしたり、課題に気付けるようにする。学習カードを取り入れるなど、変容が分かるようにする。</p>

	児童の実態	改善策
国語	<p>○自分の意見を話の構成を考えながら相手に伝わるように話すことが苦手な児童がいる。</p> <p>○全体の構成を考えながら、自分の考えが伝わるように書くことが苦手な児童がいる。</p> <p>○学習した漢字や言葉を日常的に適切に使う力が十分ではない。</p>	<p>○説明文の学習で記述内容が分かりやすい理由を捉えさせ、相手を納得させるには理由や具体例が必要であることを実感させる。自分の意見に根拠をつけて話したり、話す順番を工夫したり、説得力のある話し方を指導していく。</p> <p>○報告書など、教科書に載っている文章の構造を読み取り、その構造や定型文を自分の文に活かす指導をする。例文を用い、始め・中・終わりを基本とした構造を理解させた上で構成メモを作らせる。書いた文章は読み合ったり、発表したりさせ、相手意識をもたせる。構成を考える上での土台となる文章を読み取る力を定着させるため、事実と意見を区別する、朝読書の時間を活用し、日常的に読書に取り組みせる。</p> <p>○新出漢字の学習ではその漢字の持つ意味や熟語と関連づけて理解させるようにする。国語の報告文や作文の指導時に既習の漢字を書かせ実践場面で意図的に活用させる。</p>
社会	<p>○学習課題を身近な問題として、捉えにくい。</p> <p>○複数ある資料から、必要な情報を取捨選択する力に課題がある。</p> <p>○資料から読み取ったことを関連付けたり、活用したりする力に課題がある。</p>	<p>○自分たちの生活に関わりのある事象や時事問題を導入時に活用する。</p> <p>○学習課題を明確にし、グラフの読み方や、資料の読み取りのポイントを示してから、調べさせるようにする。</p> <p>○読み取ったことを文章だけでなく、図や表で表し、関連性を視覚化させる。</p>

算数	<p>○解決方法を順序立てて言葉で説明することに課題がある。</p> <p>○基準量・比較量・割合の関係を正確に理解できていない児童がいる。</p> <p>○小数のわり算の筆算が正確にできない児童が多い。</p>	<p>○多くの児童に画用紙やミニホワイトボードに考えを書かせて発表させたり、友達の考えを発表させたりする活動を多く取り入れる。</p> <p>○未知の数を□に置き換えて文章をそのまま立式させたり、数直線や対照表を用いて視覚的に関係をとらえさせたりする。</p> <p>○除数を整数にするために被除数も等倍するといった小数の除法の考え方と、小数点を移動する作業とを結びつけて理解させる。計算練習を繰り返し、筆算の手順を定着させる。</p>
理科	<p>○実験や観察をすすんで行うが、結果を考察したり表現したりする力は十分ではない。</p>	<p>○問題解決の道筋を示し、実験の必要感を高める。</p> <p>○実験の結果から分かったことを問題に正対させて考察したことを書かせる。その際、大事な語句を例示するなどして考察するときの基本的な型を指導する。</p>
音楽	<p>○器楽の演奏技能に個人差が見られる。</p>	<p>○個別に適切な指導をするとともに、難易度別の課題を用意して児童が意欲をもって取り組める工夫をする。</p>
図画工作	<p>○発想豊かに自分の表現をすすめる児童も多いが、自信がなく発想が広がらない児童もいる。</p> <p>○画材や用具の基礎・基本的な扱いに苦手意識のある児童が見られる。</p>	<p>○グループでアイデアを伝え合う時間を設けたり、題材に関係する参考資料を提示したりとアイデアを引き出すような支援をしていく。</p> <p>○用具の基本的な扱い方、使用方法を繰り返し指導していく。また、個別に指導・支援をする。</p>
家庭	<p>○授業の内容を実生活に活かす態度に課題がある。</p> <p>○生活経験の違いから、技能に個人差が見られる。</p>	<p>○衣食住生活で家庭生活を考える活動や実践を取り入れ、自分の生活をすすんで考えられるようにする。</p> <p>○つまずきやすい箇所を可視化し、ICTを効果的に活用しながら分かりやすい説明を工夫する。また、ほっとメイトさんの支援や、グループ活動を通して学び合いを活発にする。</p>

<p style="text-align: center;">体 育</p>	<p>○器械運動等、課題解決型の運動領域に個人差が大きく見られる。</p>	<p>○コーディネーショントレーニングを取り入れ、基礎的な運動能力を向上させる。 ○学び合いを活発にしたり、学習カードを活用したりし、自分の課題を個別に練習できる機会を設けていくとともに、ICTを学び合いに活用する。</p>
<p style="text-align: center;">外 国 語</p>	<p>○外国語の活用が得意な児童もいれば、苦手意識のある児童も見られる。外国語を活用する技能に個人差がある。</p>	<p>○どの児童もできるようになりたいと意欲がわく導入やゴールを設定したり、異文化への興味関心が高まるような資料の提示を随時行ったりする。 ○間違いを恐れず英語を使い、間違えたら言い直したりキーワードを示して聞き直したりすることを大切にしていく。 ○ワークシートや授業を通して児童観察を随時行い、学習内容の定着が心配な場合は、授業時間外も学習できるよう、課題や学習方法を示したり、個別に声を掛けたりして対応する。 ○得意な児童には活躍の場面を設けたり、それぞれの児童のもつ既習事項を活用できる場面を設けたりする。</p>

	児童の実態	改善策
国語	<p>○事実や事例と筆者の考えを区別することはできるが、文章全体の構成を正しく捉えることを苦手とする児童が多い。</p> <p>○学習した漢字や言葉を日常的に適切に使う力に課題がある。</p>	<p>○指示語や接続語などに注目して読ませ、段落と段落のつながりを意識して文章構成図を作り、視覚化させる。その上で筆者の考えを把握させる。</p> <p>○新出漢字の学習ではその漢字の持つ意味や熟語と関連づけて理解させるようにする。毎時のふり返りや感想を書く際、既習の漢字を使うことを意識させる。</p>
社会	<p>○学習課題を身近な問題として捉えにくい。</p> <p>○歴史上の人物や出来事を関連付けて、理解する事が苦手な児童がいる。</p> <p>○歴史上の人物や用語の定着率が低い。</p>	<p>○身近にある政治的・歴史的な事象を取り上げることで、学習課題への関心を高めさせる。</p> <p>○人物や業績、時代背景など調べたことを図解化してまとめ、歴史の流れや関連性を明確にし、思考を深めさせる。</p> <p>○調べたことを、話型を用いて、自分の言葉で説明させたり、まとめさせたりする。</p>
算数	<p>○計算はできるが、計算の仕方を筋道立てて説明したり、自分の考えを文章に書いたりすることが苦手な児童が多い。</p> <p>○数量と図や文章を比較・関連付けて読み取る力に課題がある。</p>	<p>○課題解決型学習を多く取り入れる。使える既習事項、解決すべき事項などのポイントをおさえ、課題を絞って問題に取り組ませる。</p> <p>○数直線図を用いて視覚的に関係を捉えさせ、理解できるようにする。 未知の数を□やXに置き換えて、図式化させる。</p> <p>○聞かれていることや分かっていることは何かを問い、分かっている情報をどのように活用していけばいいのか考えさせる活動を取り入れる。</p>
理科	<p>○実験や観察から考えたことをまとめたり表現したりすることはできるが、そこから学習したことが知識・理解に十分に定着しないことがある。</p>	<p>○実験の考察から分かったことをまとめとして言語化させる。また、大事な語句繰り返し反復したり、小テストを計画的に実施したりするなどして知識の定着をはかる。</p>
音楽	<p>○器楽の演奏技能に個人差が見られる。</p>	<p>○個別に適切な指導をするとともに、難易度別の課題を用意して児童が意欲をもって取り組める工夫をする。</p>

<p style="text-align: center;">図 画 工 作</p>	<p>○見通しをもって、計画的に作品づくりをすることが苦手な児童が見られる。</p> <p>○発想や構想がなかなか深まらないで、停滞しがちな児童が見られる。</p>	<p>○題材全体の取り組み時間を示し、計画的に取り組めるようにする。</p> <p>○参考資料を提示したり、友達の作品や、身近な美術作品の鑑賞をしたりして、想いを広げる。</p>
<p style="text-align: center;">家 庭</p>	<p>○生活経験の違いから、技能に個人差が見られる。</p> <p>○自分の生活を見直し、主体的に改善しようとする機会が少ない。</p>	<p>○つまずきやすい箇所は確認や練習をしながら定着させる。また、学び合いを活発にして、生活に関する意識を高め深く考えられるようにする。</p> <p>○衣食住生活で家庭生活を考える活動や実生活に基づく実践を取り入れ、自分の生活をすすんで考え改善していけるようにする。</p>
<p style="text-align: center;">体 育</p>	<p>○学習課題を意識して活動したり、振り返りをしたりすることが不十分な児童が見られる。</p>	<p>○ICTを学び合いに活用し、活動のポイントや友達の良い動きなどを捉えさせる。</p> <p>○手本となるふり返りを全体に紹介したり、視点を明確にふり返りをさせたりする。</p> <p>○コーディネーショントレーニングを取り入れ、基礎的な運動能力を向上させる。</p>
<p style="text-align: center;">外 国 語</p>	<p>○得意な児童もいれば、苦手意識のある児童も見られる。技能の個人差がある。</p>	<p>○どの児童もできるようになりたいと意欲がわく導入やゴールを設定したり、異文化への興味関心が高まるような資料の提示を随時行ったりする。</p> <p>○間違いを恐れず英語を使い、間違えたら言い直したりキーワードを示して聞き直したりすることを大切にしていく。</p> <p>○ワークシートや授業を通して児童観察を随時行い、学習内容の定着が心配な場合は、授業時間外も学習できるよう、課題や学習方法を示したり、個別に声を掛けたりして対応する。</p> <p>○得意な児童には活躍の場面を設けたり、それぞれの児童のもつ既習事項を活用できる場面を設けたりする。</p>

令和2年度授業改善推進プラン

立川市立第五小学校 こだま学級

	児童の実態	改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○相手に分かりやすく内容を整理して伝えることが苦手な児童がいる。 ○興味・関心・意欲が継続しない児童がいる。 ○スピーチや感想文では、「～しました。」という事実のみの表現になったり、「楽しかったです。」などの同じ心情表現になったりする。 ○促音、拗音の表記が定着しづらい児童がいる。 ○相手を意識して聞くことが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「いつ」「どこで」「誰が」「何をした」などの項目の書かれているワークシートを使用する。 ○児童の実態に応じて、読んだことのある物語を教材として使用したり、しりとりや早口言葉などの言葉遊びを学習の導入として取り入れたりすることで、関心や意欲を高める。 ○時間を構造化し、短く区切って学習する。 ○始めは気持ちを表す言葉を例示し、その中から選択させることで、語彙を習得させていく。 ○単語に拍子をつけ、手拍子と合わせて発音するなど体を使って覚えられるようにする。 例) ス キ ッ プ (単語) パ パ ッ パ ン (手拍子) ○意識して聞けるような座る位置、視線の確認をする。また、聞く時間を徐々に延ばしていき、きちんと聞けている状況を即時フィードバックしてプラスイメージをもたせる。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○興味・関心・意欲が継続しない児童がいる。 ○繰り返り上がり、繰り返り下がりのある計算の習得でつまづく児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○具体物や半具体物を用意するなど、児童の興味関心が高まるような教具を用意する。また、身近な事象と結びつけて課題を作る。 ○時間を構造化し、短く区切って学習する。 ○ブロックやおはじきなどの半具体物を操作しながら、数の合成や分解が理解できるように指導していく。
日常生活	<ul style="list-style-type: none"> ○身辺自立の定着が難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童によって課題の量を調整し、やり終える達成感を味わわせることで、徐々に課題の量を増やすようにしていく。 ○児童自身が自分の力でできるよう、余裕をもった時間の設定をしたり、見守りながら支援のタイミングを見付けたりする。 ○家庭と情報交換をしながら連携してやっていく。

音楽	<p>○感覚過敏等で集団で歌うことや合奏することに積極的に参加できない児童がいる。</p>	<p>○楽器、童歌、リズム打ちなどいろいろな活動を取り入れたり、児童同士の関わりを作ったりすることで意欲的に参加できるようにする。また、同じ教材を繰り返し行い、安心して参加できるように慣れさせる。</p> <p>○イヤマフを着用させ、音の刺激を小さくする。</p>
図画工作	<p>○教員からの指示が多くなってしまい、児童がそれぞれどのように作品を作っているか考える時間が少なくなっている。</p> <p>○発達年齢の幅が広いいため、課題によって児童の実態に合わないものがある。</p>	<p>○言葉かけを最小限にし、児童が自ら考え、活動するのを待つ。</p> <p>○学年ごとに分けて指導をすることで、発達年齢に応じた課題に取り組めるようにする。</p>
体育	<p>○技能面での定着がしづらい。</p> <p>○体幹保持の難しい児童がいる。</p>	<p>○発達段階に応じた課題ごとのグループ分けをし、スモールステップでの指導・支援を行う。</p> <p>○感覚統合を取り入れた、スクーターボードや人工芝生歩きなど楽しんで体幹を鍛えられるようにする。</p>